



白石恵理子
(しらいし えりこ)
京都大学大学院で
学び、大津市発達
相談員などを経て、
現在滋賀大学教育
学部教授。

ここからはじめる②

白石 「こだわりを止める」という発想になると、余計にこだわりを強めがちです。また、自閉症の方の場合、操作的に「できる」力はあっても、目的意識や達成感との間でギャップが大きいことがあります。「できるからがんばれ」ではなく、この人にとっての仕事の意味とは？仕事の何に手ごたえや楽しさを感じているのか？をまず考えたいですね。女性職員とも「いっしょにやった」「楽しかった」と共感できる場面をどこかでつくれるといいのではないのでしょうか。

【しなやかにしたたかに 仲間と社会に向き合って】白石恵理子
定価1575円 全障研出版部

問題行動の理解と実践、職員の専門性、障害の重い人の労働、豊かな余暇、知的障害のある人の壮年期・高齢期など、仲間たちの願いに応えたいと奮闘する職員に向けて執筆。



読者プレゼント！抽選で3名様に、詳しい応募方法は最後のページで。

実践相談

フキ

わ かりたい！ な かまの 「ね がい」

～「？」からはじまる ゆたかな生活～

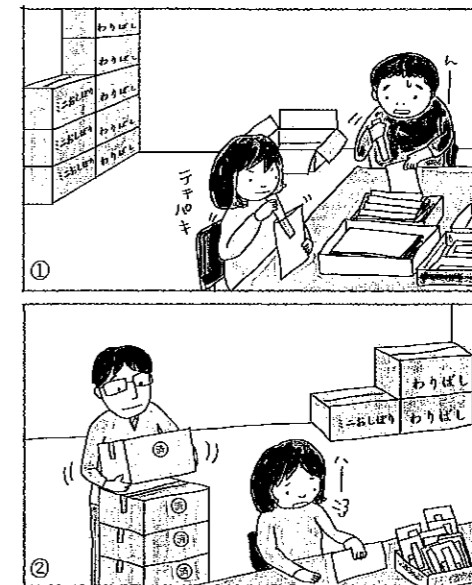


Episode2

ヒ サシさん(34)は、気になる場所があり、作業中も気になっていきます。まわりに男性職員がいるときはいいのですが、女性職員だけになると気になる場所に走っていつてしまいます。

場所にごだわりのある自閉症のなかま

「〇〇なとき、どうしたらいいの…」 「〇〇に困ってます！」
なかまと働き、生活を支援しているとき、日々の実践で出会う「？」
そんな「？」を白石恵理子さんに聞いてみました。



Episode1

モ トコさん(25)は、いつかは一般就労したいという気持ちをもちながら作業所で働いています。ただ、気分が不安定になるときがあり、自分から休みたいともいえないので、どこかに隠れて休むこともあります。「思い」と「実態」の間で、不安定になる日々が続いています。

「思い」と「実態」のハザマで不安定になるなかま

ここからはじめる①

白石 本人のねがいを大事にしようとしている姿勢は大切だと思います。しかし、「一般就労したい→休んでいる自分はダメだ」となると、どんどん自分への信頼は崩れてしまいます。今の自分を肯定的にみつめられることが何よりも必要だと思います。医療との連携を含めて、「気分の波」とうまくつきあっていけるよう応援できるといいですね。適度に休めること、しんどいことを人に相談できることも「はたらく」力なのではないでしょうか。

「発達保障って？」

白石 成人期の実践においても、発達保障の視点をもつことを大切にしたいと思います。それは、単純に「発達させよう」「できることを増やそう」とするものではありません。重い障害のある人も、職員も、家族も、誰もが、自分や社会への「ねがい」をもつ権利主体であるところを、「ゆたかさ」や人間の価値を創造する可能性をもっていることを認め合うことが発達保障の考え方です。そして、「ゆたかさ」や人間の価値は、一人ひとりがバラバラに切り離されるなかではなく、他者との多様で具体的な関係のなかで、それぞれの主体的努力が少しずつ織りなされることによつて創りだされるものです。実践のなかで悩みにぶつかったときも、二度なかま自身の本当のねがいを聴き取っていきましょう。表面的には「問題」しか見えない行動のなかに「ねがい」が隠れていることもあります。なかまとの「対話」を繰り返して、職員集団で行きつ戻りつしていくプロセスにかけがえのない真実があります。

ArtWork No.04

葛飾北斎「神奈川沖波裏」
ゆったり塾 (大阪)



ArtWork No.03

「象」
那須伸二さん (広島)



子どものころ、那須さんは図鑑を見るのが大好きだったそうです。そのせいか、描かれるものは動物が多く、今回の「象」は、インド象やマンモスなどパリエーションも豊富です。この作品は、ベニヤ板にクレヨンで配色した下書きの土に、溶かした口ウをたらします。その口ウがまだ冷め切る前に、一気に線を削っていきます。迷いなく、力強く。下書きのラインがあらわれます。